

日本文化紹介のパンフレットスライド制作 —プロジェクトの設定から一連の活動におけるICTの活用— (New Horizon English Course 3 Stage Activity 2 Discover Japan)

- ① 統合
- ② 個・表
- ② 協・制
- ③ タブ
- ④ Google スライド, ジャムボードなど

【ここがポイント!】

◎ICTを活用したプロジェクト学習で英語力を伸ばす

①プロジェクトの目的・場面・状況を具体的に設定する

ALTの姉でアメリカの中学校で社会を教えている先生のクラスとの交流という設定で、パンフレット作成の目的をはっきりさせる。アメリカの中学生が書いた実際の英文を読み取り、理解を深めることから意欲を高める。常にアメリカの中学生の英文を読むことで、相手との距離が近くなる。その明確な目的・場面・状況と意欲で、一連の言語活動にオーセンティックな意味をもたせて進めることができるため、作文の内容をより良いものにするために、協力して表現の工夫ができる。

②やり取りを通して、書く表現力を高める

まとまりのある文章を書く力を伸ばすために、チームでのやり取りを通して表現力を高める。自分だけでは気付かない改善点に気付くために、ペアでのやり取りと、付箋で伝えるやり取りからアプローチする。文章表記、内容構成、より伝わりやすい表現の向上を協働学習でめざす。

【実践の目標】

日本文化の紹介をパンフレット形式で紹介をすることができる。ペアでのやり取りの中で表現を練り上げ、書く力を伸ばすことができる。

【実際の場面】

1. 導入・設定

アメリカの中学生のニーズを知るために、フォームを使ったアンケートをお願いした。アンケート結果をスプレッドシートで共有して内容を検証した。アメリカの中学生の生の意見を興味深く読み取った。また、交流しているALTの姉(社会の先生)からのメッセージ動画(クラスルームにアップして繰り返し視聴可)の内容も踏まえて、パンフレットに載せたいトピックスを考えた。ジャムボード上でマッピングして、ジャンル分けした。



2. サインアップ

作成したいジャンルのトピックスにサインアップして、自分の担当ページを決定した。(Google ジャムボード)

3. 原稿の下書き(個)

モデルを参考に下書きの原稿を書いた。後置修飾の構造を取り入れることと独自性のあるメッセージを文章に含めることを条件とした。

4. やり取り(協働)

ジャムボードに原稿をアップして、内容について英語でやり取りした。(研究授業)
ペアでのやり取りや、付箋で伝えるやり取りを通して気付いた訂正案を基に、原稿(清書)を完成させた。クラスを越えてジャンル別になっているスライドの共同編集を行った。(表紙の作成、内容の校正、全体の構成)繰り返し全体のバランスを考えて、互いに加除訂正を協力して行った。

5. 振り返り

このプロジェクトを振り返って、それぞれの課題と成果をスプレッドシートで共有した。また、プロジェクト報告書を作成して、今後の自己の課題を見付けた。また、パンフレットの感想をALTの姉の学校からもらって達成感につなげた。

【成果と課題】

【成果】

- プロジェクトの目的・場面・状況を具体的に設定したことで、興味をもって意欲的に取り組むことができた。アメリカの中学生のアンケート結果について、活発に意見交換するなど、相手意識を明確にもつことでプロジェクトの意義が高まった。
- 相手意識をもって書くことで、条件とした「①後置修飾」を使う意味を理解した。また、「②独自性のあるメッセージ」を楽しんで工夫する様子があった。
- ジャムボードとスライドを使った活動を繰り返してきたので、スムーズに協働学習を進めることができた。付箋のアドバイスが感想レベルから具体的な提案へレベルアップした。共同編集では、表紙のアニメーションの工夫や、英文の修正を積極的に行うなど、得意分野で互いにリードし合うためにICTを効果的に活用できた。

【課題】

- 翻訳機能を使いながらも、表現力を確実に上達させる教え方を工夫する必要がある。
- アメリカの冬休み前の授業に間に合わせてパンフレットを送ったが、PDFをクラウド上で共有する操作を間違え、最後の共有ができなかった。機能を適切に使う技能は、今後の課題である。

廿日市市立阿品台中学校

